

手術の際の全身麻酔とは、眠るお薬を使って、ただただと眠らせてしまえばいい、実はそれだけではなりません。手術では痛みの止むための薬を、(鎮痛薬)ただでは十分、痛みを止める(鎮痛薬)ことも必要なのです。さらに、手術中、体動は危険な場合があるため、筋肉の動きを抑制



四国健康ナビ

徳島大大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
田中 克哉 准教授

国内で使用できるものになり、副作用が少なく、すぐ効いて、中止すればすぐに作用が切れてくる薬が導入されています。したがって、麻酔薬を投与している間は麻酔薬の効果が發揮され、手術時間に関わらず手術終了後、投与中止すると速やかに効果が切れてきます。

切れ味が鋭くなった新しい麻酔薬

する(筋弛緩)ことが必要です。つまり、手術中は鎮静、鎮痛、および筋弛緩が得られるようにして、手術に耐える状態を維持しなければなりません。

これらの麻酔科領域の新しい薬は、国内の多くの病院で使用されています。以前は、手術が終わってももうろうとした状態がしばらく続いたり、呼吸のトラブルや、胃液などを嘔吐して肺炎を起すことがありました。しかし、新しいお薬を使った全身麻酔は薬の切れ味が鋭いので、通常、術後30分程度で過剰な状態が過ぎます。麻酔から覚醒した直後にもう一回に会話ができ、嘔吐下機能も回復してきます。

我々麻酔科医は、以前よりも術後の痛みに対する対策をしっかりと考えるようになったのです。術後の鎮痛方法をそのためのさまざまな薬の組み合わせ、鎮痛薬をしっかりと痛くなく、かつ理想的な状態を作ります。また、全身麻酔で手術が必要になった場合でも、心配しすぎないで全身麻酔を受けていただくたいと思っています。

近年、鎮静薬、鎮痛薬、筋弛緩薬それぞれ新しい薬が